

各部部長及び  
若手アカデミー報告資料

第一部報告  
第196回総会  
2026年4月9日-10日

第一部役員  
部長：吉田 文  
副部長：只野 雅人  
幹事：小田中直樹  
幹事：西山 慶彦

# 第一部の組織

## 分野別委員会（10）・分科会（65）

分野別委員会	単独分科会数	合同分科会数
言語・文学委員会	2	3
哲学委員会	3	6
心理学・教育学委員会	3	9
社会学委員会	6	3
史学委員会	7	3
地域研究委員会	5	3
法学委員会	9	4
政治学委員会	5	1
経済学委員会	5	2
経営学委員会	2	2
第一部直接統括	2	0
合 計	49	36

\* 合同分科会数は延べ数、実数は16。うち、第二部、第三部との合同分科会数は10。

# 第一部の運営体制

- 部会：年3回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：部会の中に1～2回、必要に応じて開催（部役員+ 分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
  - ・ 国際協力分科会
  - ・ 総合ジェンダー分科会

# 第26期の方針

1. 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
2. 改正科学技術・イノベーション基本法、第7期科学技術・イノベーション基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
3. 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、部の特性を生かしながら積極的に参画します。
4. 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

# 2025年10月総会以降の活動

- 「意思の表出」に関わる部及び分野別委員会による査読等の実施
- 意思の表出：公表済 6件（提言1、見解1、報告4）  
第一部査読・承認終了 5件（提言1、見解4）  
科学的助言等対応委員会に申出書を提出済 14件（見解11、報告3）
- 公開シンポジウムの開催：2025年11月～2026年4月、20件開催。  
2026年5月～2026年9月、4件開催予定

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

## 【公表済】

- 提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正の実現を目指して—2030年に向けた課題—」（第一部総合ジェンダー分科会）
- 見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」（政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会ジェンダー法分科会）
- 報告「災害対応と復興政策のための社会的モニタリングと復興アーカイブの実質化を目指して」（社会学委員会・災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 報告「縮小社会を前提とした持続可能な国土・地域を構想するために」  
（地域研究委員会縮小社会の地域構想分科会）
- 報告「福祉の価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創」  
（社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）
- 報告「心についての科学教育の未来像 ～よりよい社会を実現するために～」  
（心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

## 【第一部査読・承認終了】

- 提言「包括的反差別法の制定に向けて～多種多様な差別を解消するために～」（科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）
- 見解「ESD充実のための地理教育における小学校・中学校・高等学校までの一貫カリキュラムに向けて」（地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会）
- 見解「地名問題の総合的解決に向けてー地名問題の共有化・地名データベース作成・国際連携の三位一体アプローチー」（地域研究委員会地域情報分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 見解「教育データの利活用のさらなる促進に向けて」（情報学委員会・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会）
- 見解「AI活用時代における経営人材・経営専門人材育成の変革」（経営学委員会AI時代に備える経営人材育成に関する分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

## 【科学的助言等対応委員会に申出書を提出済】

- 見解「ジェンダー統計充実に向けた性別情報の意義」（社会学委員会  
ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会）
- 見解「人文・社会科学におけるオープンサイエンスを踏まえた質的研究のためのデータ基盤の形成」（地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 見解「言語的少数者との共生のための、言語権概念の『学習指導要領』への導入（仮称）」（言語・文学委員会言語コミュニケーションと共生分科会）
- 見解「サービス化社会における共創価値の尺度について」（経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会）
- 見解「国立心理科学研究所構想の推進」（心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 見解「今に生きる・活かす古典－倫理・道徳教育における古典活用の可能性」（哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に生きる・活かす古典を考える分科会）
- 見解「終末期・人生の最終段階における治療中止・差し控えと安楽死の法制化をめぐる現状と課題（仮称）」（哲学委員会現代における「いのち」を考える分科会）
- 見解「性的マイノリティの権利保障をめざして（Ⅲ）－司法判断の進展をふまえて－」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 見解「婚姻の平等実現に向けた民法改正への提言―相次ぐ違憲判決をふまえて―」（法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会）
- 見解「「歴史教育」をとりまく「無意識のバイアス」の克服―ジェンダー史の視点から学習者をエンパワーメントする―（仮）」（史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会）
- 見解「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」（経済学委員会ワークライフバランス研究分科会）
- 報告「現代社会における多様なリスクに対する法的・政策的対応(仮題)」（法学委員会リスク社会と法分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会）

# 意思の表出の状況（2026年4月現在）

- 報告「不安定化する世界における地域研究の社会連携体制の構築：現状と課題（仮称）」（地域研究委員会地域研究社会連携分科会）
- 報告「ポスト・トゥルース時代における人々の歴史実践・歴史認識を取り巻く課題（仮）」（史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、同委員会アーカイブズと社会に関する分科会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 11/15 公開シンポジウム「人口減少下の地域福祉と地方自治」（政治学委員会 人口減少下の行政・地方自治分科会）
- 11/16 公開シンポジウム「トランプ関税と国際経済秩序」（政治学委員会、経済学委員会）
- 11/16 公開シンポジウム「社会学のアウトリーチ」（社会学委員会 課題解決のための社会理論分科会）
- 11/22 公開シンポジウム「婚姻平等をめぐる司法と立法——国際比較と日本の課題」（法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会、法学委員会 ジェンダー法分科会、史学委員会 ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 11/22 公開シンポジウム「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」（経済学委員会 ワークライフバランス研究分科会）
- 12/21 公開シンポジウム「分断化する社会の中で対話は可能か——ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」（哲学委員会）
- 2/1 公開シンポジウム「日本文学と藍」（言語・文学委員会 日本文学の伝統と現代社会分科会）
- 2/1 公開シンポジウム「人類学者と語る「他者理解」」（地域研究委員会 多文化共生分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同 自然人類学分科会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 2/21 公開シンポジウム「いま、「排外主義」を考える～共に生きる社会は可能か」（地域研究委員会 多文化共生分科会）
- 2/28 公開シンポジウム「今こそジェンダー主流化を」（社会学委員会 ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会）
- 3/7 公開シンポジウム「不登校現象と今後の学校づくり」（心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会）
- 3/8 公開シンポジウム「研究倫理・調査倫理の現在」（社会学委員会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 3/8 公開シンポジウム「子どもの権利から見たあるべき教員養成カリキュラム改正とは」（社会学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・法学委員会・経済学委員会合同 子どもの権利保障分科会）
- 3/9 公開シンポジウム「東日本大震災の「記憶」を振り返る」（史学委員会・哲学委員会合同 科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会、若手アカデミー）
- 3/9 公開シンポジウム「政治の歴史をどう語るか—陰謀論の時代の中で」（政治学委員会 政治の歴史と主権者教育分科会）
- 3/10 公開シンポジウム「教育データのさらなる利活用の促進について考える」（情報学委員会・心理学・教育学委員会合同 教育データ利活用分科会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 3/14 公開シンポジウム「医科学知は誰のものか？—医科学による管理と<生の自己決定>をめぐる対話—」（史学委員会・哲学委員会合同 科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会）
- 3/16 公開シンポジウム「国立心理科学研究所構想の推進」（心理学・教育学委員会 心の総合基礎分科会）
- 3/22 公開シンポジウム「女性の政治参画を進めるために：議会と政党は何をすべきか」（政治学委員会 民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、法学委員会 ジェンダー法分科会、第一部総合ジェンダー分科会）

# 公開シンポジウム（2025年11月-2026年4月分）

- 3/28 公開シンポジウム「福祉の価値とイノベーションの創発による福祉システムの共創～多様性と地域共生への展望～」（社会学委員会 価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）

# 公開シンポジウム等（2026年5月-2026年9月分）

（以下は、今後の開催予定） \* 幹事会承認済

- 5/10 公開シンポジウム「大学は多様性とどう向き合うか：イノベーション、人権、インターセクショナルリティ」（第一部総合ジェンダー分科会）
- 8/28 学術フォーラム「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」（日本学術会議）
- 9/4 - 9/6 公開シンポジウム「法律学からみた心理学・心理学からみた法律学」（法学委員会・心理学・教育学委員会合同法と心理学分科会）



日本学術会議 総会  
2026年4月9日

## 第二部活動報告

令和7 (2025) 年10月～令和8 (2026) 年3月

### 第二部役員

部長：尾崎 紀夫

副部長：堀 正敏

幹事：古屋敷 智之

幹事：玉腰 暁子

# 組織及び活動の概要

第二部は会員**69**名、部または下記9委員会※<sup>1</sup>の下に81分科会（2025.03.31時点）が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。

分野別委員会	委員長	分科会数
部附置分科会		
生命科学系学術雑誌問題検討分科会	小林 武彦	1
第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会	樋田 京子	1
基礎生物学委員会	小林 武彦	13
統合生物学委員会	北島 薫	7
農学委員会	中嶋 康博	12
食料科学委員会	高山 弘太郎	10
基礎医学委員会	五十嵐 和彦	9
臨床医学委員会	山本 晴子	13
健康・生活科学委員会	西村 ユミ	7
歯学委員会	村上 伸也	3
薬学委員会	奥田 真弘	5

※<sup>1</sup> 環境学委員会は分野別委員会ではあるが、融合領域分野として第一部～第三部の会員から構成されているため、9委員会には含まれていない。

※<sup>2</sup> このほか、農学委員会土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会及び臨床医学委員会放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会の下にそれぞれ1つずつの小委員会が設けられている。

## 第二部の意思決定や意見交換：部会や拡大役員会開催

### ◆ 第9回部会（2025年10月28日）※ハイブリッド開催

- ◆ 主な議題：部長の互選、副部長及び幹事の指名、新しい日本学術会議のあり方に関する審議、意思の表出の検討状況や諸活動等に関する報告

### ◆ 会員予定者の候補者の選考に係る意見交換会（2026年2月16日）※オンライン開催

- ◆ 役員および各委員会の委員長・副委員長・幹事により、法人化後における会員予定者の候補者選考の変更点を共有することを目的として開催された。特に、新設される「セクション4（新興・分野横断分野）」の考え方と運用を確認し、第二部として各委員会・分科会の検討を具体化するための議論を行った。

### ◆ 臨時部会（2026年2月27日）※オンライン開催

- ◆ 主たる議題：日本学術会議の法人化に向けた検討
  - 法人のガバナンス（透明性・独立性）
  - 会長候補者選考（透明性確保）：投票過程の情報の扱い（得票状況の開示の範囲・タイミング等）について意見交換
  - 監事の関与
  - 次期会員予定者の候補者選考：若手アカデミーの年齢要件の柔軟化に関する意見交換
  - 外国人研究者の参画
  - 意思の表出における事務局の関わり

# 科学的助言 (1/3)

- ・ 提言4件、見解8件、報告12件(計24件)予定
- ・ うち査読中が8件、**6件が発出 (=公表) 済み**

## ○報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について (2025年版)」

※2025年11月14日発出

生物科学分科会 (基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同)

## ○報告「大学教育の分野別質保証のための教育編成上の参照基準 薬学分野」

※2025年12月22日発出

薬学教育参照基準検討分科会 (薬学委員会)

## ○報告「歯学分野の研究力の推移、及び歯学領域が抱える課題」 ※2026年2月12日発出

歯学委員会、基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会 (歯学委員会)

## ○報告「DNA親子鑑定の実用化がもたらす家族観の揺らぎと法的・社会的課題」

※2026年2月24日発出

臨床ゲノム医学分科会 (臨床医学委員会)

## ○提言「我が国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」 ※2026年2月27日発出

食の安全分科会、獣医学分科会、農芸化学分科会、毒性学分科会、パブリックヘルス科学分科会 (食料科学委員会、農学委員会、基礎医学委員会、健康・生活科学委員会、薬学委員会)

## ●報告「移植医療と再生医療の現状と課題について」 ※2026年3月13日発出

移植・再生医療分科会 (臨床医学委員会)

## ○テーマ：生活習慣病予防の推進

生活習慣病対策分科会 (健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同)

○はこれまでの総会で報告済み、●は新規

## 科学的助言 (2/3)

- テーマ：高齢者の健康と生活に与える環境の影響  
高齢者の健康・生活分科会（健康・生活科学委員会）
- テーマ：ケア共同社会の実現に向けたケアサイエンス  
共生社会に向けたケアサイエンス分科会（健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同）
- テーマ：人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材  
ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会（健康・生活科学委員会）
- テーマ：加熱式タバコ使用を含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性  
パブリックヘルス科学分科会（健康・生活科学委員会）
- テーマ：土壌の健康（Soil Health）の理解・維持向上・共有  
土壌科学分科会（農学委員会）
- テーマ：脳科学研究とその臨床応用に関わる倫理的課題  
神経科学分科会、脳とこころ分科会、移植・再生医療分科会（基礎医学委員会、臨床医学委員会）
- テーマ：現代の新生児医療における倫理的意思決定  
出生・発達分科会（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同）
- テーマ：獣医学の担う社会的役割の長期展望  
獣医学分科会（食料科学委員会・基礎医学委員会合同）
- テーマ：粒子線がん治療に関する産学共同研究および社会実装  
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会（臨床医学委員会・総合工学委員会合同）

○はこれまでの総会で報告済み、●は新規

## 科学的助言 (3/3)

- テーマ：生命科学データのオープンな流通と活用の推進  
バイオインフォマティクス分科会（統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同）
- テーマ：産業生物におけるゲノム編集技術の現状と課題  
産業生物バイオテクノロジー分科会（農学委員会・食料科学委員会合同）
- テーマ：子どもの育ちと子育てを支援する社会の実現  
生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会（健康・生活科学委員会）
- テーマ：多極分散型社会の実現に向けた農の役割  
地域総合農学分科会（農学委員会）
- テーマ：高等教育における昆虫科学教育のあり方  
応用昆虫学分科会（農学委員会）
- テーマ：ネイチャーポジティブを実装可能にする生態科学  
生態科学分科会（統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同）
- テーマ：高等学校における生物教科のあり方  
遺伝学分科会（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同）
- テーマ：老化分科会の提言・見解の社会的受容と情報発信のあり方  
老化分科会（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同）

# シンポジウム（2025年10月～2026年3月）2025年分

- ・2025年10月から2026年3月の期間中、第二部の委員会・分科会で以下27件の公開シンポジウム等を開催  
前年同期に比し、**23%増**。多くが学会や学協会連合体との共催で開催
- ・「One HealthからSFTS（重症熱性血小板減少症候群）を深掘り」の参加者数561名を筆頭に、**計4件のシンポジウムで300名を超える参加**

開催日	名称	開催場所	参加人数	委員会・分科会
10月4日(土)	科学におけるダイバーシティを考える ～自分らしい進路・キャリアパス選択のために～	オンライン開催	177名	生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会等
10月24日(金)	育種学ウェビナーシリーズ【第2回】多様な育種のかたちⅡ～畜産/人材育成編～	オンライン開催	80名	農学委員会育種学分科会
11月10日(月)	海洋生物と気候変動：現状と課題	オンライン開催	140名	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会等
11月22日(土)	国立自然史博物館設立をめざして	オンライン開催	70名	統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会等
11月29日(土)	今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える	オンライン開催	248名	農学委員会植物保護科学分科会等
11月29日(土)	「土の教育」始めませんか？	オンライン開催	123名	農学委員会土壌科学分科会等
12月6日(土)	動物の安楽死を考えるⅡ	オンライン開催	247名	食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会等
12月7日(日)	スポーツとは何か ― 科学が問いかける身体、社会が求める共生	早稲田大学（ハイブリッド）	154名 （うち現地43名）	健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
12月12日(金)	育種学ウェビナーシリーズ【第3回】遺伝資源と持続可能な社会	オンライン開催	120名	農学委員会育種学分科会
12月14日(日)	子育てと子どもの育ちを支援する社会を実現するための課題について考える―子どもがまんなかの社会の実現に向けて―	オンライン開催	146名	健康・生活科学委員会生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学分科会
12月20日(土)	【市民公開講座】ゲノム情報・医療情報・生体試料の共有を巡って―展望と課題―	パシフィコ横浜（ハイブリッド）	226名 （うち現地107名）	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会等
12月21日(日)	【学術フォーラム】ケアの多様性・包摂性・公平性・持続可能性	日本学術会議講堂（ハイブリッド）	196名 （うち現地38名）	健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会

# シンポジウム（2025年10月～2026年3月） 2026年分

開催日	名称	開催場所	参加人数	委員会・分科会
1月8日(木)	人口10万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献	オンライン開催	78名	農学委員会地域総合農学分科会
1月9日(金)	ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進	日本学術会議講堂 (ハイブリッド)	281名 (うち現地34名)	基礎医学委員会機能医科学分科会
1月16日(金)	<b>One HealthからSFTS（重症熱性血小板減少症候群）を深掘り</b>	オンライン開催	<b>561名</b>	食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会等
2月1日(日)	人類学者と語る「他者理解」	オンライン開催	162名	統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会等
2月6日(金)	沿岸養殖の現在地と持続可能な未来－データで問い直す日本の養殖業－	オンライン開催	225名	食料科学委員会水産学分科会
2月7日(土)	<b>【学術フォーラム】高齢者に優しいまちづくり：現場・自治体から学ぶ</b>	日本学術会議講堂 (ハイブリッド)	<b>371名</b> (うち現地48名)	健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会等
2月14日(土)	みる・きく・はなすの老化と視覚・聴覚最先端治療	オンライン開催	145名	臨床医学委員会感覚器分科会
2月15日(日)	<b>動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(4)</b>	オンライン開催	<b>360名</b>	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2月21日(土)	One Health時代における獣医学の使命－くらし・いのち・地球を繋ぐ－	オンライン開催	120名	食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会等
3月1日(日)	現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法	日本学術会議講堂 (ハイブリッド)	155名 (うち現地80名)	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会
3月6日(金)	育種学ウェビナーシリーズ【第4回】モデルからフィールドへ～基礎研究と現場をつなぐ育種学～	オンライン開催	150名	農学委員会育種学分科会
3月8日(日)	海洋生物と気候変動：解決と適応	オンライン開催	110名	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会等
3月11日(水)	響き合ういのち－種をこえて共に生きる生物たちの新しい世界－	同志社大学	129名	食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会
3月21日(土)	産官学で推進する地域創生：ブルーカーボンがもたらす可能性	陸前高田市コミュニティホール (ハイブリッド)	143名 (うち現地74名)	食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、食料科学委員会水産学分科会
3月28日(土)	<b>気候変動を食い止める農業生産技術－今、我々に何ができるか－</b>	高崎健康福祉大学 (ハイブリッド)	<b>335名</b> (うち現地240名)	農学委員会農学分科会

## 第三部報告

2025年10月～2026年3月

第三部部会 10/28(前回総会中)、1/27、3/23

第三部拡大役員会 11/27、12/23\*、2/27\*

\* 分野別委員会委員長も参加

部長	沖	大幹
副部長	北川	尚美
幹事	奥村	幸子
幹事	関谷	毅

# 1. 第三部における分野別委員会及び附置分科会

## 分野別委員会

環境学委員会 \*  
数理科学委員会  
物理学委員会  
地球惑星科学委員会  
情報学委員会  
化学委員会  
総合工学委員会  
機械工学委員会  
電気電子工学委員会  
土木工学・建築学委員会  
材料工学委員会

## 委員長

森口 祐一  
齋藤 政彦  
腰原 伸也  
佐竹 健治  
下條 真司  
岡本 裕巳  
玉田 薫  
高田 保之  
三瓶 政一  
竹内 徹  
岸本 康夫

## 副委員長

池邊 このみ  
伊藤 由佳理  
櫻井 博儀  
小口 高  
高田 広章  
三浦 佳子  
宮崎 恵子  
佐田 豊  
大橋 弘美  
佐々木 葉  
尾崎 由紀子

\* 第一部～第三部合同

## 第三部附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会  
理工系博士人材育成分科会

玉田 薫  
奥村 幸子

堀 利栄  
関谷 毅

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(1/6)

### 部会ならびに拡大役員会での議論

(部会：10/28(前回総会中)、1/27、3/23

拡大役員会：11/27、12/23\*、2/27 \* \* 分野別委員会委員長も参加)

### ○分野別委員会の設置ならびに活動状況に関する確認

→各分野別委員会の活動を部会にて報告

→分野別委員会の下に75の分科会\*、60の小委員会が設置され、活動を開始  
(参考資料A)

※2024年4月以降に設置が認められた分科会は1件

→会員間の情報共有の円滑化を推進し、分科会活動を精査・支援

### ○公開シンポジウム(19件)・学術フォーラム(5件)の開催

→参考資料B

### ○「アクションプラン」の検討状況の共有と速やかな実行に向けた議論

→第三部から予定されている提言等の状況確認

→科学的助言機能強化のための見直し(第三部における査読手順の改訂)

→関連学協会と連携を深める方法等に関する意見交換(\*参考資料C)

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(2/6)

### ○「日本学術会議のあり方」に関する議論

→法人化準備委員会での議論の状況等を踏まえて継続的に意見交換

### ○2025年度予算執行方針に基づく予算執行状況の確認

→2025年度予算執行方針の発出とその後の予算執行状況の検討・確認

### ○理工系における博士人材育成に関する議論

→第三部理工系博士人材育成分科会での議論を踏まえて意見交換

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(3/6)

### ○第三部臨時部会

日時:2026年1月27日(火)9:00～14:00

場所:日本学術会議6F 6-C(1)(2)会議室およびオンライン(ハイブリッド開催)

出席者:計44名(会場現地20名、オンライン24名)

#### 議事

- (1) 前回議事要旨の確認
- (2) 第三部意思の表出状況について
- (3) 日本学術会議法人化をめぐる現状について
  - ・分野別委員会のあり方について
  - ・次期会員の選考について                    等
- (4) その他

開催趣旨
・法人化議論についての情報共有と意見交換 (8つのグループに分かれてディスカッション)

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(3/6)

### ○ 第三部臨時部会(続き)

日時: 2026年1月27日(火)9:00～14:00

場所: 日本学術会議6F 6-C(1)(2)会議室およびオンライン(ハイブリッド開催)

#### 議論された内容

#### I. 新たな分野別委員会・課題別委員会のあり方

1. 新規分野・分野横断委員会の設置方針
2. 具体的に提案された新規委員会テーマ

#### II. 分科会の継続性・設置プロセスの改善

1. 継続性の確保
2. 継続と刷新のバランス
3. 設置・立ち上げの迅速化
4. 再編・合同の柔軟化

#### III. 組織運営・ガバナンスの改善

1. 意思決定・運営スピードと透明性
2. 事務局・運営体制
3. 法人化と中長期ビジョン

#### IV. 学術の発信・社会との関係強化

1. 意思の表出・出版、信頼性の担保
2. 学術の魅力発信、若手人材育成
3. サイエンスコミュニケーション人材育成

#### V. 会員選考・新興分野・多様性・バランス

1. 新興分野と伝統分野
2. セクション・部構成
3. ジェンダー・年齢・地域・国籍
4. 推薦・選考プロセス

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(5/6)

○「人材育成」に関する検討、意見交換

→第三部理工系博士人材育成分科会(WGとして2024/12に発足、2025/4より第三部附置分科会へ移行)

目的 :理工系分野における博士人材育成の課題・問題点とその原因、課題解決に向けた施策・方策を整理し、レポートをまとめる。必要に応じてエビデンスの収集(アンケート実施と既存データの活用)を行う。レポートには、理工系分野共通の課題だけでなく、分野による状況・課題の違いも明記し、俯瞰的な視野で我が国の中長期的発展に資する施策・方策を提起する。レポートを踏まえ、シンポジウム等を開催し広く関係機関や社会に向けて周知・提案する。

開催日:2024/12/24、2025/1/27、2/28、3/21、5/29、7/22、9/5、12/2、12/24

経過報告:①博士人材育成の課題(問題点)とその原因、施策についての整理・追加。  
:②エビデンスとして使えるデータをリストアップ。さらにエビデンスが必要な個所(学生とその周囲の博士進学に対する意識、博士人材を雇用する企業の「博士」の待遇・評価)について議論。  
:③大学院生座談会 ←「学生とその周囲の博士進学に対する意識」  
:④深めるべき学術会議ならではの論点←「博士人材に対する意識・認識」  
:⑤シンポジウムの開催(6月10日)、レポート(記録)の作成

## 2. 2025年10月～2026年3月の活動(6/6)

### ④深めるべき論点

#### 1) 公的な支援のあり方(博士課程、博士取得後)

→良いプログラムを恒久的な教育課程に組み込む施策の必要性、具体的なテーマに対して学生支援を行うプログラムを増やす。

#### 2) 学生側の意識

→長期的、短期的に役立つスキルを区別して教員が教える。企業と学生の接点を積極的に設けることを研究室任せにせず、大学内・大学間で行う。

#### 3) 大学教育側/アカデミア側の意識

→引き続きの博士支援策により「社会人」として扱える仕組みの構築。多様な博士人材の受け入れ。若手ポストを任期制から安定したポジションにすべき。

#### 4) 企業側の意識

→キャリア形成のための環境整備を産学共同で行う。比較的若い年代で社会人博士を取得。複数の中小企業を対象として博士人材受け入れの常設機関の設置。

#### 5) 博士人材の重要性・必要性

→「博士人材」が有する能力とは、「専門性」に加えて、研究を推進する能力(高度な総合知や汎用的能力)や研究マネジメント能力であるが、大学院教育において「専門性」以外の部分の重要性の理解が学生・教員ともに不十分。博士人材を採用している、あるいは、今後したい企業の中にも採用・配属時に「専門性」のみに着目している場合がある。

### ⑤公開シンポジウムの開催(6月10日(水)午後ハイブリッド「研究者養成から社会実装人材へ — 博士教育の再設計」)とレポート(記録)の作成

### 3. 今後の活動

- 会員・連携会員が参画する委員会・分科会の精査と活動の支援
- 「アクションプラン」の推進に向けた検討
- 「日本学会議の法人化」に関する意見交換
- 「博士人材育成」に関する検討

# (参考資料A) 分野別委員会下の分科会設置状況(1/2)

## ○ 分野別委員会下の分科会

(委員会の後の ( ) 内は分科会数、\*は複数委員会にまたがる合同分科会)

- 環境学委員会(6): FE・WCRP合同分科会\*、環境リスク分科会\*、環境思想・環境教育分科会、環境政策・環境計画分科会、環境科学・環境工学分科会、自然環境分科会\*
- 数理科学委員会(4): IMU分科会、数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会
- 物理学委員会(6): IAU分科会、天文学・宇宙物理学分科会、物性物理学・一般物理学分科会、素粒子物理学・原子核物理学分科会、物理教育分科会、IUPAP分科会\*
- 地球惑星科学委員会(9): 地球惑星科学国際連携分科会、IGU分科会、IUGG分科会、IUGS分科会、SCOR分科会、地球・惑星圏分科会、地球・人間圏分科会、地球惑星科学社会貢献分科会、地球惑星科学次世代育成分科会
- 情報学委員会(6): 国際サイエンスデータ分科会、ITの生む諸課題検討分科会、教育データ活用分科会\*、サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会、情報学教育分科会、サイバーセキュリティ分科会
- 化学委員会(11): IUPAC分科会、IUCr分科会、化学企画分科会、物理化学・生物物理化学分科会、無機化学分科会、有機化学分科会、材料化学・分析化学分科会、結晶学分科会\*、触媒化学・化学工学分科会\*、高分子化学分科会、生体関連化学分科会

# (参考資料A)分野別委員会下の分科会設置状況(2/2)

## ○分野別委員会下の分科会(つづき)

- 総合工学委員会(9):総合工学企画分科会、ICO分科会、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会\*、原子力安全に関する分科会、科学的知見の創出に資する可視化分科会、未来社会と応用物理分科会、エネルギーと科学技術に関する分科会、フロンティア人工物分科会\*、計算科学シミュレーションと工学設計分科会\*
- 機械工学委員会(7):機械工学企画分科会、理論応用力学分科会\*、機械工学の将来展望分科会、ロボット学分科会、IFAC分科会\*、生産科学分科会、生体医工学分科会\*
- 電気電子工学委員会(4):URSI分科会、制御・パワー工学分科会、デバイス・電子機器工学分科会、通信・電子システム分科会
- 土木工学・建築学委員会(8):IRDR分科会、気候変動と国土の未来分科会、WFEO分科会\*、インフラレジリエンス分科会、複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会、カーボンニュートラル都市分科会\*、子どもの成育環境分科会\*、デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会
- 材料工学委員会(5):材料工学中長期研究戦略分科会、バイオマテリアル分科会\*、サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会\*、新材料デザイン検討分科会、将来展開分科会\*

## (参考資料B) 第三部に関連する公開シンポジウム・学術フォーラム開催(1/3)

2025年 10月8日	「生成AIの光と闇」 【大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール(オンライン併用)】	総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2025年 10月20日	AI導入による有機・高分子化学の10年先の将来展望 【日本学術会議講堂】	化学委員会有機化学分科会、高分子化学分科会
2025年 11月1日	プラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害:コミュニティの役割と挑戦 【帝京大学 板橋キャンパス】	環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、防災減災学術連携委員会
2025年 11月7日	学術フォーラム「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	日本学術会議(機械工学委員会)
2025年 11月11日	界面反応に基づくバイオマテリアル研究開発 【東京たま未来メッセ(オンライン併用)】	材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会
2025年 11月15日	量子が世界を変える:科学の100年と未来への挑戦 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	物理学委員会
2025年 11月29日	学術フォーラム「Future Earthと地球環境激変の10年:私たちはどこまで来たのか?これからどうすべきか?」 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	日本学術会議(環境学委員会、地球惑星科学委員会、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会)
2025年 12月1日	カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー分野の展望 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、環境学委員会環境科学・環境工学分科会、化学委員会・総合工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会

## (参考資料B) 第三部に関連する公開シンポジウム・学術フォーラム開催(2/3)

2025年 12月2日	第15回計算力学シンポジウム 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2025年 12月9日	学術フォーラム「世界の防災の未来: 災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	日本学術会議(土木工学・建築学委員会、防災減災学術連携委員会)
2025年 12月11日 -12日	キャビテーションに関するシンポジウム(第22回) 【金沢工業大学扇が丘キャンパス】	機械工学委員会
2025年 12月23日	地球再興を見据えた新材料デザイン 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	材料工学委員会新材料デザイン検討分科会
2026年 1月14日	第19回情報学シンポジウムー量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望ー 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	情報学委員会
2026年 1月19日	原子力総合シンポジウム2025 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	総合工学委員会原子力安全に関する分科会
2026年 1月31日	マテリアル融合: 物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略 【東京大学化学講堂】	化学委員会無機化学分科会、高分子化学分科会、材料化学・分析化学分科会、物理化学・生物物理化学分科会、有機化学分科会、IUPAC分科会、生体関連化学分科会、IUCr分科会、化学委員会・物理学委員会合同 結晶学分科会
2026年 2月17日	AI時代における統計科学・データサイエンスの役割と挑戦 --- 公平性、信頼性、解釈可能性、AIガバナンスの観点から 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	数理科学委員会数理統計学分科会、数学教育分科会、数学分科会、情報学委員会情報学教育分科会

## (参考資料B) 第三部に関連する公開シンポジウム・学術フォーラム開催(3/3)

2026年 2月21日	学術フォーラム「STEM 分野の未来を支える多様性とは: 教育・探究・キャリアをつなぐ対話—理系の男女差を解決する鍵は、小中教育? 家庭? 地域?」 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	日本学術会議(物理学委員会、科学者委員会、情報学委員会、数理科学委員会、法学委員会)
2026年 2月23日	Nature-based Solutions: 自然に根ざした社会問題の解決に向けて 【オンライン】	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2026年 3月4日	学術フォーラム「くらしを豊かにする化学の力 —材料と分析の融合が拓く未来—」 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	日本学術会議(化学委員会)
2026年 3月6日	第11 回理論応用力学シンポジウム 【日本学術会議講堂(オンライン併用)】	機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会
2026年 3月10日	教育データのさらなる利活用の促進について考える 【京都大学学術情報メディアセンター】	情報学委員会・心理学・教育学委員会教育データ利活用分科会
2026年 3月17日	半導体テクノロジーはウェルビーイングを向上させられるのか? 【東京科学大学 大岡山キャンパス】	電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会
2026年 3月19日	教育改革と可視化—生成AIは大学をどう変えるのか— 【大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール(オンライン併用)】	総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2026年 3月21日	環境化学物質の健康影響、その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて:2. 曝露測定—何をどのように測定するか 【栃木県総合文化センター】	環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会

# (参考資料C)理学・工学系学協会連絡協議会

## 理学・工学系学協会連絡協議会(82学協会)

日本学術会議第三部拡大役員会の下に、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題(新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等)、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行っている。

第17回 2026年2月27日(金) 9:30～11:30

ハイブリット開催

- 第三部理工系博士人材育成分科会について
  - 日本学術会議の法人化について
  - 日本学術会議と学協会の連携について
- など意見交換

- ✓ 博士人材育成に関する各学協会の取り組み
  - ✓ アcademiaと産業界、政府など多様な機関との連携の重要性
  - ✓ 学術会議からの情報発信の強化
  - ✓ 意思の表出後の「フォローアップ」の重要性
- など議論

### 【これまでの開催実績】

第1回	2010年4月23日(金) 13:30～15:30
第2回	2011年7月29日(金) 13:30～15:30
第3回	2012年5月18日(金) 14:00～16:00
第4回	2013年2月22日(金) 10:00～12:00
第5回	2014年6月25日(水) 13:30～15:00
第6回	2016年6月24日(金) 10:00～12:00
第7回	2017年8月31日(木) 10:00～12:00
第8回	2018年3月30日(金) 10:00～12:00
第9回	2019年3月28日(木) 10:00～12:00
第10回	2020年8月26日(水) 10:00～12:00
第11回	2020年10月30日(金) 13:00～15:20
第12回	2021年6月24日(木) 10:00～12:00
第13回	2022年3月24日(木) 10:00～12:00
第14回	2023年3月23日(木) 9:30～11:30
第15回	2024年3月25日(月) 10:00～12:00
第16回	2025年2月27日(木) 9:30～11:30

# 日本学術会議第196回総会 若手アカデミー活動報告

(2025.10-2026.3)



# 第26期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー（Young Academy of Japan）は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる45歳未満の研究者で構成

## 26期の体制と活動（2023.12-2026.9）

1. 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動・発信
2. 日本学術会議の活動や発信への若手研究者視点の反映
3. 具体的な諸問題に取り組む7つの分科会活動



全体委員数 46名  
(連携会員 (特任) 2名)

# 運営分科会メンバー

## 幹事団



代表  
小野 悠



副代表  
標葉 隆馬



幹事  
南澤 孝太

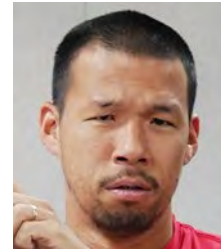


幹事  
門田 有希

## 分科会 委員長



学術の未来を担う  
人材育成分科会  
小川 剛伸



ワーク・ライフ・  
バランス分科会  
川口 慎介



若手主導の異分野融合研究  
の推進に関する分科会  
藤岡 沙都子



国際分科会  
加納 圭



未来を拓く学術  
イノベーション分科会  
武田 秀太郎



地域社会とアカデミアの  
連携に関する分科会  
木村 草太



情報発信分科会  
大西 楠テア

# 7つの分科会

分科会名	審議事項
<b>学術の未来を担う人材育成分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学術の次世代を担う若手人材の育成</li> <li>• 次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策</li> </ul>
<b>ワーク・ライフ・バランス分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた現状把握と対策</li> <li>• 女性研究者への過負荷の現状把握と対策</li> </ul>
<b>若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 科学分野間の融合に関する調査・議論</li> <li>• 新たな学術的成果の表現方法に関する調査・議論</li> </ul>
<b>国際分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本の学術が地球社会において果たすべき役割と国内での活動指針</li> <li>• 若手アカデミーの国際的活動の推進および連絡調整</li> <li>• 各研究分野の国際化をめぐる課題</li> <li>• 科学技術外交、技術移転に関する課題</li> <li>• グローバルレベルでの公平な知識やアクセスに関する課題</li> </ul>
<b>未来を拓く学術イノベーション分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産官学連携を通じたイノベーション創出の在り方</li> <li>• イノベーション・エコシステムの創出</li> <li>• イノベーションを通じた地域創生</li> </ul>
<b>地域社会とアカデミアの連携に関する分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域社会での科学者の役割の可視化と評価</li> <li>• 地域活性化に資する公共・民間・学術の連携</li> <li>• これまでの科学者と地域の連携の検証と今後の連携の展望</li> <li>• 地域での発展的な研究活動、領域横断的研究</li> </ul>
<b>情報発信分科会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 若手アカデミーのホームページ</li> <li>• 若手アカデミーの情報発信</li> </ul>



## 若手アカデミー

### 若手アカデミーについて

代表からのメッセージ

#### 20年後の科学・学術と社会を見据えたりモデリング戦略の実行

日本学術会議若手アカデミー（Young Academy of Japan）は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野において、最先端の研究に取り組む45歳未満の研究者をメンバーとしています。確固たる専門性と多様な背景をあわせ持つユニークな組織として、未来の科学・学術を担う若手研究者の立場から、さまざまな活動を展開しています。その大きなミッションは、研究者コミュニティのみならず、政府、産業界、メディア、国民、さらには諸外国の若手アカデミーと対話・連携しながら、世界や日本が直面する課題、そして若手研究者を取り巻く課題に対する解決策を提示し、実行していくことです。

こうした問題意識のもと、若手アカデミーでは2023年9月に「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を公表しました。第26期では、この見解を起点として、10の課題の具体的な解決に取り組むとともに、2040年を見据えた科学・学術と社会のあるべき姿について、さらに議論を深化させていきます。



代表 小野 悠  
豊橋技術科学大学



副代表 標葉 隆馬  
慶應義塾大学



幹事 南澤 孝太  
慶應義塾大学



幹事 門田 有希  
岡山大学

[▶ 若手アカデミー](#)

[☰ トップニュース](#)

[☰ 若手アカデミーの最近の動き](#)

[☰ 若手アカデミーが主催した活動報告](#)

[☰ 若手アカデミーからの発信](#)

[☰ 過去の主要な活動等](#)

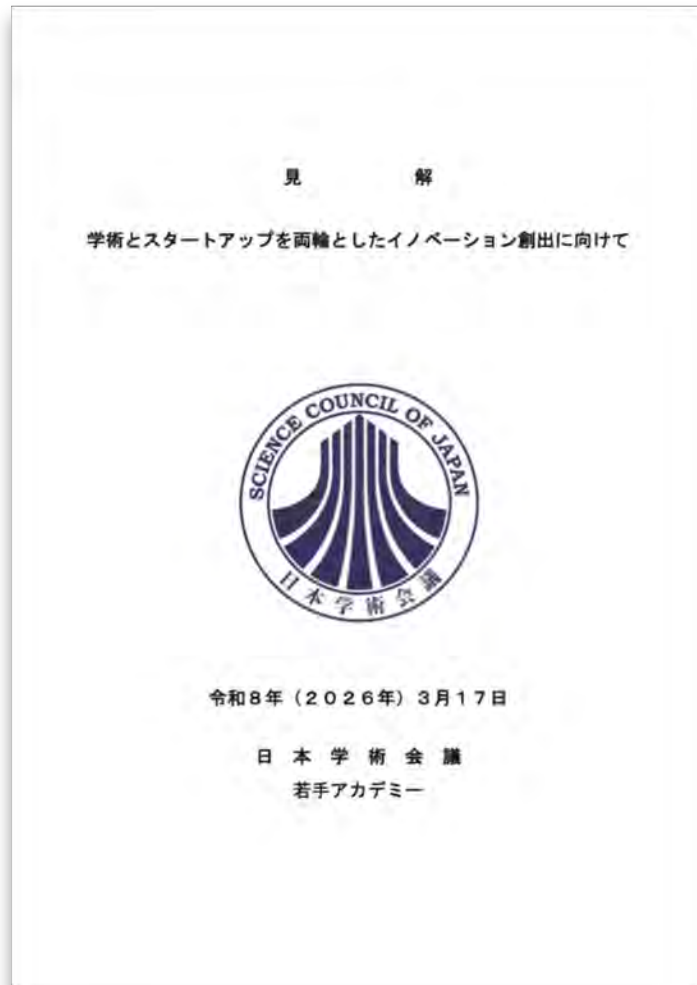
[☰ 規則](#)

[☰ 組織](#)

[☰ 構成員](#)

[☰ 若手アカデミー会議 開催状況](#)

# 見解「学術とスタートアップを両輪としたイノベーション創出に向けて」発出



- 学術の社会貢献を実現する手段として大学発スタートアップの重要性が増しながら、日本では研究者が起業に挑戦しやすい環境が十分整っていない現状を踏まえて見解を示した。
- **研究者でありながら起業に踏み切った「研究者起業家」に対し初めてとなる聞き取り調査・定量分析**を実施した。
- 研究者起業家への調査では、**約7割が起業が研究キャリアにプラスだったと回答し、論文数や被引用度にも有意な低下は見られず、研究と起業の両立が可能であることが示唆**された。
- これを踏まえ、起業サバティカルや人事評価の見直しなど研究者キャリアの連続性を担保する制度整備、スタートアップを継続的に生み出す研究室の支援、そして起業数ではなく研究成果による社会課題解決を重視する政策への転換が必要という見解を示した。

## ISC会長・次期会長とのランチミーティング

- ・開催日：2025年10月3日
- ・会場：日本学術会議（乃木坂）
- ・参加者：ISC会長・次期会長
- ・参加：標葉隆馬・門田有希・菅野早紀・松本大亮

ISCのグルックマン会長とダイクラーフ次期会長が日学を訪問され、国際分科会メンバーとランチミーティングを行った。世界各国の若手研究者が置かれている状況や課題についての情報を共有した。また他国の若手アカデミーと交流することの重要性を認識した。ランチミーティングは和やかな雰囲気で行われ、ISC会長・次期会長と交流できるという貴重な機会となった。



# 活動報告

## World Science and Technology Development Forum (WSTDF) に参加

- ・開催日：2025年10月27-29日
- ・会場：中国・北京
- ・参加者：世界各国から約800名
- ・参加：門田有希



今回のテーマは「AI for Science and Development (A4SD)」であり、AIや医工連携、医療、グリーンテクノロジーなど4つのkeyトピックスからなるフォーラムが開催された。本会議には政府関係者やアカデミア関係者、産業界や教育界の代表者など多様なバックグラウンドをもつ人たちが集まった。中でも、若手研究者向けの科学外交に関するワークショップに参加し、他国の若手研究者と交流した。



## 第24回アジア学術会議（SCA）パキスタン会合参加

- ・開催日：2025年11月16日～18日
- ・会場：パキスタン・イスラマバード
- ・参加者：20カ国・地域から約150名
- ・参加：標葉隆馬・松山亮太

「食料安全保障、持続可能性、生物多様性」  
をテーマに議論を行った。

次回はカンボジア工科大学の主催により、  
2026年11月にカンボジア及びオンラインで開  
催される予定。

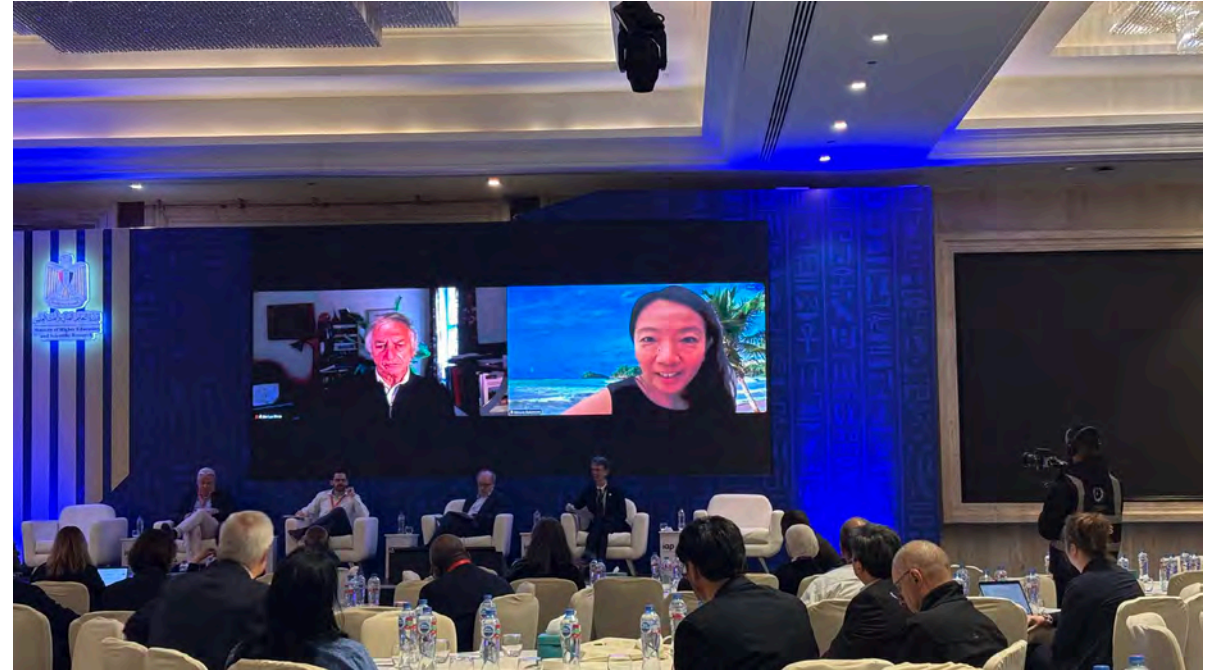


## インターアカデミーパートナーシップ(IAP)総会2025参加

- ・開催日：2025年12月8日～11日
- ・会場：エジプト・カイロ
- ・参加者：約130カ国から約160名
- ・参加：加納圭※・坂元晴香

※後述の若手海外派遣応援プログラムによる派遣

若手アカデミーとしてIAPに加入してはじめての出席となった。UK若手アカデミー等、同様に若手アカデミーとしてはじめての出席となった他国若手アカデミーとの交流も深めることができた。IAP内において若手アカデミーへの期待について述べられる場面が多々あり、若手アカデミーとして貢献していける余地が多くあることを確認した。



## 若手海外派遣応援プログラムによる派遣

・ 会議名：経済協力開発機構（OECD）第8回グローバル教育・  
スキルの未来フォーラム 2040

- ・ 開催日：2025年11月22日～28日
- ・ 会場：スロバキア・ブラチスラバ
- ・ 参加者：約40カ国から約150名
- ・ 参加：加納圭

日本学術会議・若手アカデミー所属がプログラムに明記された  
上で、教育におけるAI利活用に関する倫理的・法的・社会的課  
題（ELSI）とその対応方策について講演を行った。

【採択後にスケジュールの関係で辞退】

・ 会議名：“Society of Behavioural Health Singapore  
Annual Scientific Meeting 2026”および“Singapore  
Conference on Ageing and Health 2026

- ・ 開催日：2026年1月30日～31日および2月2日～3日
- ・ 会場：シンガポール
- ・ 参加：菅野早紀

両学会で口頭発表を行った他、GYAメンバーDr. Reuben Ngと  
交流した。



四役の先生方にはヒアリングでアドバ  
イスをいただきありがとうございました。

事務局の皆様も含め多数の方々にご支  
援いただきありがとうございました。

## 第3回那須会議×amカレッジ の開催（那須塩原市共催）

- ・ 開催日：2025年11月27日、12月27日、  
2026年2月21日（3回開催）
- ・ 場所：栃木県那須塩原市
- ・ 主催：若手アカデミー、那須塩原市

日本学術会議若手アカデミーが関与する「那須会議」を、地域・研究者・教育機関が協働する共創プラットフォームとして開催した。本年度は那須塩原市「amカレッジ」と共催し、研究者による議論に留まらず、地域プロジェクトの実装、さらに高校生へのアントレプレナーシップ教育へと展開することで、地域発のイノベーション人材育成と持続的な地域共創の仕組みづくりを試みた。



## シンポジウム：知の創造を支える人財とは何か？

### ～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～

主催：  
若手アカデミー  
研究基盤協議会

現地参加：60名  
オンライン参加：198名

**知の創造を支える人財とは何か？**  
～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～

**主催** 日本学術会議若手アカデミー・学術の未来を担う人材育成分科会  
一般社団法人研究基盤協議会

**参加無料・要事前申込**  
(締切: 2026/1/20)

**場所** 筑波大学・大学会館国際会議室(現地定員 100名・先着) /  
オンライン(Zoom定員 500名・先着)

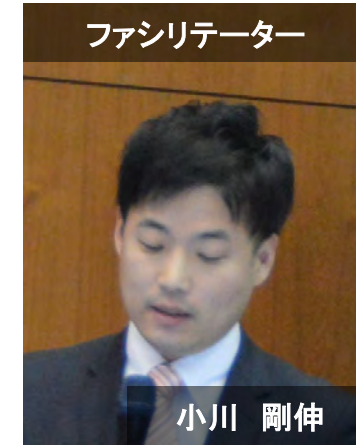
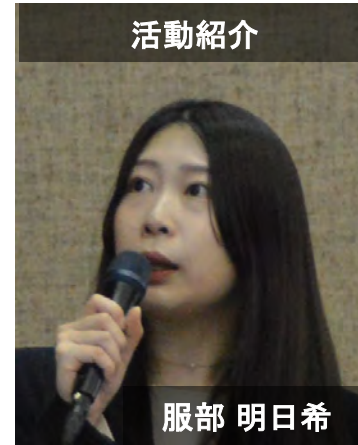
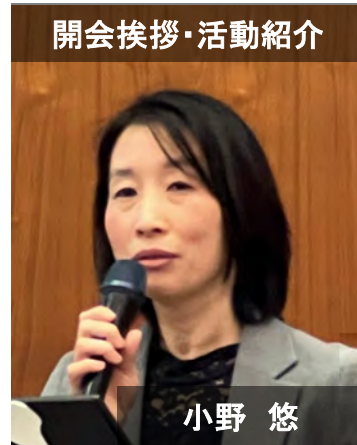
**日時** 令和8年(2026年)1月28日(水)14:00～17:00

我が国が知の最前線を牽引するためには、研究者、技術者、事務職員、URA など多様な研究人財(「人は財」  
「人財」)の確保を促すため、「人財」ではなく「人財」と表記する)の存在が不可欠である。しかし、博士課程  
進学率の減少や就職率の低下により、人財確保は年々困難となり、研究基盤の維持が懸念される。特に  
AI for Science や先端実用研究分野では需要が急増している。そこで本シンポジウムでは、今後求められる  
資質・能力の検討、人材の確保と体系的育成の方法について、アカデミア・実務・政策の視点から課題を共有し、  
実践的に議論する。

◆司会 山田 知沙 (一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアムコーディネーター /  
山口大学総合技術部技術専門員)

**開会挨拶**  
14:00 小野 悠 (日本学術会議議員、若手アカデミー代表、慶徳技術科学大学大学院工学研究科准教授)

**活動紹介**  
14:10 小野 悠 (日本学術会議議員、若手アカデミー代表、慶徳技術科学大学大学院工学研究科准教授) /  
江端 新吾 (一般社団法人研究基盤協議会代表理事、会長)



開催日：2026年1月28日(水)  
会場：筑波大学/Zoom

近年、我が国の学術を支える多様な研究人材(人財)の確保が困難となる中、AIや先端研究施設などの分野で専門人材の需要が急増している。本シンポジウムでは、こうした人財に求められる資質や育成のあり方について、アカデミア(若手アカデミー)・実務(研究基盤協議会)・政策(文部科学省「次の一手」チーム)の立場から議論を行い、次世代の研究人材育成に向けた具体的な提言を行った。



## 公開シンポジウム「東日本大震災の「記憶」を振り返る」開催

- ・開催日：2026年3月9日（月）
- ・場所：日本学術会議講堂
- ・参加者：約60名

東日本大震災から15年を迎えるにあたり、災禍の「記憶」の継承と再解釈について議論する公開シンポジウムを開催。被災地の語りの変遷、記録と風化、世代間継承などをテーマに、歴史学・社会学・防災研究など多分野の研究者が議論。災害の経験を社会の知として未来へつなぐ意義について考える機会となった。



## esse-sense連載 「2040年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき10の課題」

発出した見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」について、若手アカデミー構成員による連続インタビューを外部メディアで連載した。

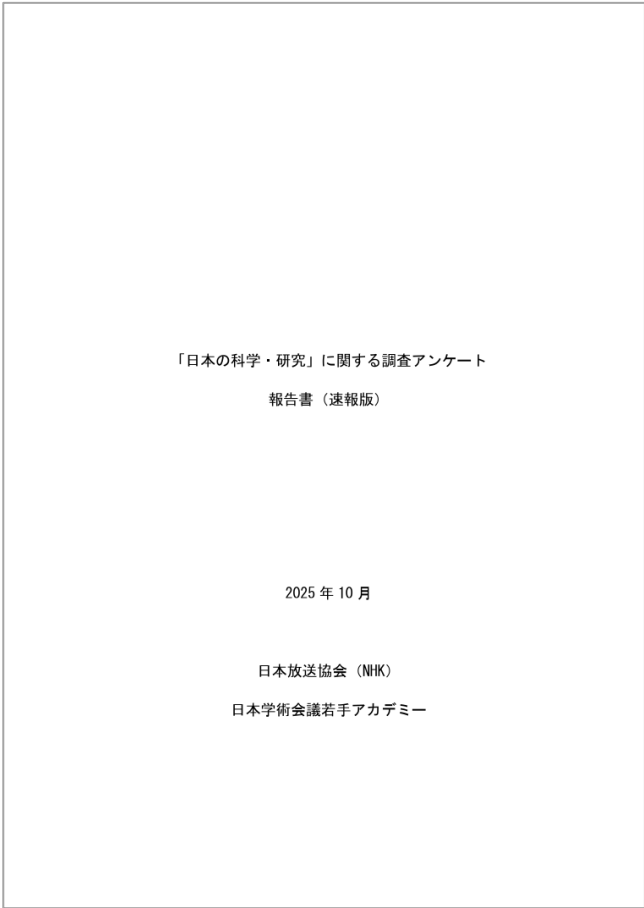
「イノベーション創出のために取り組むべき10の課題」を紐解く

- [課題1：基盤的・伝統的分野における知識や技術の蓄積（久保田好美・杉本舞）](#) [外部リンク](#)
- [課題2：越境研究や地域連携に対する評価や支援の拡充（小野悠）](#) [外部リンク](#)
- [課題3：博士号取得者を擁するコアファシリティの拡充（小川剛伸・癸生川陽子）](#) [外部リンク](#)
- [課題4：セクターを越えた共創プラットフォームの整備（武田秀太郎・藤岡沙都子）](#) [外部リンク](#)
- [課題5：競争的資金を活用するための基盤的経費の拡充と研究支援人材の増強（南澤孝太・坂井南美）](#) [外部リンク](#)
- [課題6：科学技術外交に関わるキャリアパスの整備（坂元晴香・加納圭・武田 秀太郎）](#) [外部リンク](#)
- [課題7：過度な経営的視点や失敗を許さない前例踏襲主義からの脱却（標葉隆馬・小野悠）](#) [外部リンク](#)
- [課題8：教育費の家計負担の低減（木村草太・菅野早紀）](#) [外部リンク](#)
- [課題9：アカデミア自身の“業界体質”の改善（大西 楠・テア・川口 慎介）](#) [外部リンク](#)
- [課題10：博士号取得者のセクターを越えた活用とジョブ型雇用の推進（寺田佐恵子・廣野陽子）](#) [外部リンク](#)

The screenshot shows the website interface for 'esse-sense'. The header includes the logo 'esse-sense' and the tagline '研究「知」と出会う、メディア&検索プラットフォーム'. Navigation buttons for '知る' (Know), '応援' (Support), and '探す' (Search) are visible. The main content area features the article title in large yellow text: '課題1：基盤的・伝統的分野における知識や技術の蓄積（「イノベーション創出のために取り組むべき10の課題」を紐解く）'. Below the title, the author's name '久保田好美' and affiliation '国立科学博物館' are listed. A profile picture of the author is shown. The article text begins with '令和5（2023）年9月、45歳未満の人文・社会科学・自然科学の研究者によって構成される日本学術会議若手アカデミーから「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」という見解（レポート）が発出されました。'. The date '2025.07.08' is also present.

# 「日本の科学・研究」に関するアンケート結果の公開とNHK番組での発信

2025年2月にNHKと日本若手アカデミーが共同実施（回答：約6,000名）



報告書（速報版）のHP公開

社会 政治 経済 気象・災害 国際 科学・文化

科学研究力 低下

### 日本の研究力 研究者約9割“低下感じる”【NHKなど調査】

2025年9月30日午後7時22分

ことしのノーベル賞の受賞者が10月6日から発表されるのを前に、日本の研究現場の現状について、NHKなどが研究者を対象にWEBアンケートを行いました。その結果、回答のあったおよそ6000人の9割近くが日本の科学研究力の低下を感じていることがわかりました。

<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014936251000>

<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014936251000>

NHK ニュース・防災 教育 医療・健康 福祉 ラジオ

クローズアップ現代

### ノーベル賞W受賞 実用化の最前線

進むがんの治験 実証実験でCO<sub>2</sub>の回収を確認

クローズアップ現代

#### ノーベル賞日本人ダブル受賞へ 研究の最前線は？課題は？

番組記事

初回放送日 2025年12月10日(水)午後7:30

10年ぶりの日本人ダブル受賞となった今年のノーベル賞。免疫を抑える仕組みを発見した坂口さんの研究はがん治療や自己免疫疾患への応用が期待されている。北川さんは気体を効率的にためる新素材を開発し、温室効果ガス削減やエネルギー貯蔵に革新をもたらす可能性も。一方、2人が語った「日本の研究環境の課題」。研究者6000人へのアンケートから浮かび上がる厳しい実態とは。未来を変える研究の最前線と課題を探る。

<https://www.web.nhk/tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/9919KW223K>

<https://www.web.nhk/tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/9919KW223K>

## NHKシチズンラボでのアンケート結果と研究紹介の企画展示

2025年12月：豊田中央図書館（愛知県豊田市）

2026年1月：NHKアーカイブス（埼玉県川口市）

アンケート調査の結果を踏まえ、研究者の苦勞だけでなく研究の魅力も紹介。

研究者の実際の姿を知ってもらい、研究を身近に感じてもらうことをコンセプトとしている。



## 若手アカデミーワーク・ライフ・バランス分科会

### ○日本経済学会パネルディスカッション

- ・開催日：2025年9月13日(土) ・場所：弘前大学

『有名な先生だって、色々あるのかもしれない』『先輩研究者や他大学の人も同じ苦悩を経験していることが多いので、力になってもらうことも』

### ○経団連イノベーション委員会企画部会

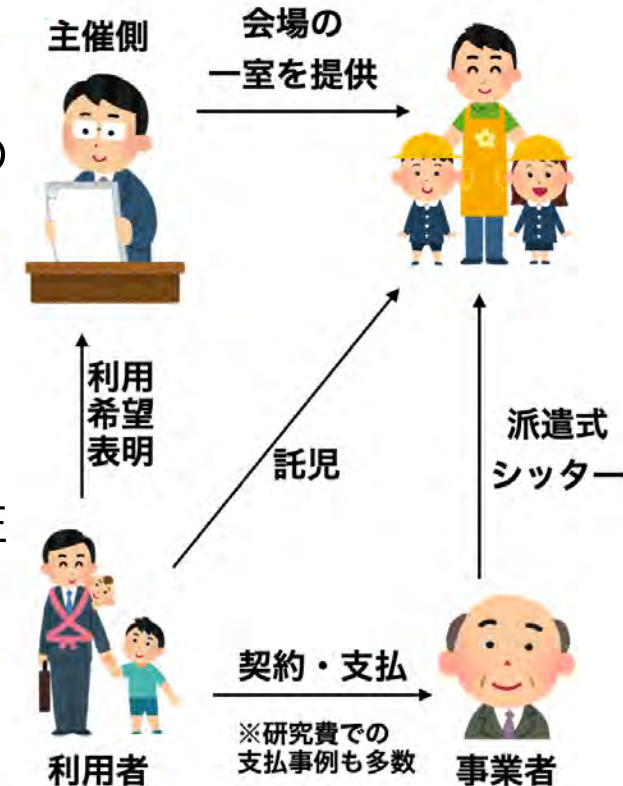
- ・開催日：2026年1月29日(木) ・場所：経団連会館

企業の保有する都心部の会議場で学術集会を開催することで、学界の利便性と産業界の情報収集を両立し、産学連携を推進できる可能性に言及した。

### ○日本生態学会キャリア支援フォーラム

- ・開催日：2026年2月6日(金) ・場所：オンライン

学界にはワークライフバランスを取りにくい慣習が残っていること、それでも各個人は工夫によって好きな研究をしながら暮らしていることが共有された。



## 異分野融合研究の推進に関するワークショップ

開催日 2025年10月18日(土) – 19日(日)

会場 長野県北佐久郡軽井沢町長倉

参加者 石川 櫻田 田井 寺田 堀 藤岡 安田 山内（以上異分野融合分科会メンバー8名）  
文科省関連の若手5名

1日目は1対1の形式で異分野融合研究を推進するためのアイデアや課題について意見交換を実施した。共同研究相手とのマッチングや異分野融合のスキームの問題、またキャリア形成も含めた教育の問題など様々な意見があった。

2日目は1日目の意見を踏まえて議論を行った。行政と研究者をつなぐハイブリッド人材の必要性、今後の学会のあり方から異分野融合研究の評価などについて活発な議論が行われた。



## 地域社会とアカデミアの連携に関する分科会

メンバーが地域連携の実践と課題を報告

- **前川報告**：タンパク質Del-1に関する研究の報告。若さや回復力についての報告があり、その後、地方大学での医学・歯学研究の課題が報告された。**人口や研究者の減少の中で、研究のためのリソース・体力の不足が深刻。**
- **標葉報告**：日本の科学技術・イノベーション政策の変化と、地域における大学の位置づけ、そして研究評価をめぐる課題を整理。**具体的な連携デザインは依然として不足している。**また、フェローシップ制度などの研究支援が大規模大学に偏り、**地域大学の博士人材育成や知識生産を阻害する構造的問題**も浮かび上がった。

⇒**人材やリソースの大都市集中の問題を議論する必要が浮き彫りに。**

**DEL-1誘導薬の利点**  
Conceptual Advance

短期の骨吸収抑制もしくは長期の骨再生など用途に応じた使用方法が可能

世界初の歯周病治療用動物医薬品となる可能性

BRONJなどの顎骨壊死を引き起こさない

既存の再生療法（iPSや組織幹細胞移植等）の効果を高める  
既存の再生療法を老化生体においても機能させることができる

**新潟大学**  
Sirisereephap Kridtapahat  
Meircurius Surboyo  
Prasiddha Mahardhika  
Fang Meiwen  
Andrea Rosenkranz  
Nathanach Saipin

DEL-1は常時発現しているため、誘導薬による副作用はない

細胞を除去できる可能性が高い

George Hajshengallis (Penn Dental Medicine)  
Triantafyllos Chavakis (TECHNISCHE UNIVERSITÄT DRESDEN)

**科 研 費**  
基礎研究 (B)、海外連携研究強化  
挑戦的研究 (萌芽)  
テルモ生命科学振興財団  
武田科学振興財団

**ま と め**

- ・大学が地域における多様な知識の拠点・ハブとなるために、今必要な事柄は何か？
  - 地域における期待感の醸成と、実際に応えるために必要な事柄は？
  - いまの課題は何か？
    - 科学技術政策、研究評価をめぐる課題
    - 大学の課題、研究者コミュニティの問題、政策など環境の問題、etc
- ・大学の多様性、機能の分担に関わるより良い形はどのようなものか？
  - 日本全体の知識生産、地域に根差した知識生産のポートフォリオの組み方
- ・地域の大学における人材育成をめぐる課題
  - 学部生、大学院生、人材の還流と定着

# 今後の予定

## 1. Global Young Academy 総会・国際会議

開催日：2026年6月28～7月3日  
会場：ドイツ・ブレーメン

## 2. World Forum for Women in Science (WSWF)/女性科学者のための世界フォーラム

開催日：2026年7月  
会場：広島大学

## 3. アジア学術会議

開催日：2026年11月  
会場：カンボジア工科大学

## 4. World Science Forum

開催日：2027年3月18日～3月21日  
会場：トルコ



Machine Intelligence for Society  
and for all Sciences

GYA Annual General Meeting and  
International Conference  
of Young Scientists

📍 Bremen, Germany

30 June - 3 July 2026



GLOBAL  
YOUNG  
ACADEMY

25 CONSTRUCTOR  
YEARS UNIVERSITY

## World Forum for Women in Science Japan

The 12th International Conference  
for Women in Science  
without Borders  
July 18-20, 2026



# 公開シンポジウム

## 「若手アカデミー：15年間の活動とこれからの展望」

2026年6月22日(月)開催



第24期 (2018年)

若手アカデミーは、2011年の設立（2014年法的根拠整備）から5期15年間にわたり活動を継続しており、参画者数は延べ約150名となっている。

若手アカデミーは、若手組織ゆえに、参画メンバーが極めて流動的であることも特徴の一つである。

これは組織の新陳代謝の観点では望ましい一方、その活動履歴の蓄積と継承が構造的に困難という難点でもある。



第26期 (2025年)

本シンポジウムでは、アルumniを含めた若手アカデミーメンバーから15年間の活動を紹介し広く共有するとともに、法人化後の若手アカデミーの展望を議論する。

# 公開シンポジウム

## 「若手アカデミー：15年間の活動とこれからの展望」



13:00-13:10 挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長）

内閣府日本学術会議担当大臣等【調整中】

13:20-15:10 第1セッション「若手アカデミー活動の共有」

『若手アカデミーの成立経緯と黎明』

駒井 章治（東京国際工科専門職大学）\*\*

『学術界の若手として1：スカイプ導入など先進的な取り組み』

住井 英二郎（東北大学）\*\*

『学術界の若手として2：シニアとの接続』

高瀬 堅吉（中央大学）\*\*

『国際若手学者ネットワークでの日本代表1：GYAを中心に』

新福 洋子（広島大学）\*\*

『国際若手学者ネットワークでの日本代表2：その他の活動』

門田 有希（岡山大学）\*

『国内若手世代の学術界人として1：政官との交流』

岸村 顕広（九州大学）\*\*

『国内若手世代の学術界人として2：産業界や地域活動との交流』

南澤 孝太（慶應義塾大学）\*

日時：2026年6月22日（月）13：00～17：30

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

15:20-16:50 第2セッション「これからの若手アカデミーへの期待」

◆公開鼎談 若手アカデミー外からの期待 若手アカデミー外からの期待

司会 木村 草太（東京都立大学）\*

パネリスト 西田 亮介（日本大学）

榎 太一（同志社大学）

◆パネルディスカッション 若手アカデミーアルムナイからの期待

司会 標葉 隆馬（慶應義塾大学）\*

パネリスト 狩野 光伸（岡山大学）\*\*

中西 和嘉（国立研究開発法人）\*\*

松中 学（名古屋大学）\*\*

杉本 舞（関西大学）\*

16:50 挨拶

小野 悠（豊橋技術科学大学）\*

																
石川 麻乃	大西 穂テア	緒形 ひとみ	岡田 隼象	小川 剛伸	小野 悠	加納 圭	河岡 慎平	田井 明	田川 義之	武田 秀太郎	武田 宙也	樽野 陽幸	寺田 佐恵子	富永 依里子	仲上 豪二郎	
東京大学・准教授	東京大学・准教授	広島大学・教授	東京大学・教授	京都大学・助教	豊橋技術科学大学・准教授	滋賀大学・教授	東北大学/京都大学・准教授	福岡工業大学・教授	東京農工大学・教授	慶應義塾大学・准教授	京都大学・教授	京都府立医科大学・教授	大阪公立大学・助教	広島大学・准教授	東京大学・教授	
進化生物学	比較法	スポーツ栄養学	遺伝統計学	食品工学	都市工学	科学コミュニケーション	生体情報解析学	土木工学	流体力学	サステナビリティ学	美学	生理学	保全科学	結晶工学	看護理工学	
<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>
																
川口 慎介	川端 美季	木村 草太	久保 都	久保田 好美	突生川 陽子	河内山 拓磨	坂井 南美	中谷 武志	廣野 陽子	藤井 一至	藤岡 沙都子	堀 美香	前川 知樹	松本 大亮	松山 亮太	
海洋研究開発機構・上席研究員	立命館大学・特別招聘准教授	東京都立大学・教授	理化学研究所・チームディレクター	国立科学博物館・研究主幹	東京科学大学・准教授	早稲田大学・准教授	理化学研究所・主任研究員	海洋研究開発機構・グループリーダー代理	DMG森精機株式会社・執行役員	福島国際研究教育機構・ユニットリーダー	慶應義塾大学・准教授	名古屋大学・講師	新潟大学・教授	東京都医学総合研究所・主任研究員	農業・食品産業技術総合研究機構・研究員	
深海調査科学	医学史	憲法学	神経科学	古気候・古海洋学	宇宙化学	経営学	電波天文学	海中ロボット学	機械工学	土壌学	化学工学	病態医科学	口腔科学	遺伝子工学	疫学	
<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>
																
坂元 晴香	根田 涼子	實藤 和佳子	標業 隆馬	清水 真理子	新村 毅	菅野 早紀	杉本 舞	南澤 孝太	門田 有希	八尾 史	安田 仁奈	山内 紀子				
聖路加国際大学・委員准教授	甲南大学・教授	九州大学・准教授	慶應義塾大学・准教授	寒地土木研究所・主任研究員	東京農工大学・教授	青山学院大学・准教授	関西大学・教授	慶應義塾大学・教授	岡山大学・教授	東京大学・准教授	東京大学・教授	茨城大学・准教授				
国際保健	経営学	心理学	科学社会学	土壌学	動物行動学	応用ミクロ経済学	科学技術史	身体情報学	植物遺伝育種学	仏教学	海洋分子生態学	化学工学				
<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>	<a href="#">リンク1</a> <a href="#">リンク2</a>



どうぞ、よろしくお願ひいたします。